

テーマ2

森林環境教育をすすめることの意義と実践

いま広がりはじめた森林環境教育の解説と森林・木材を活用することの意味をわかりやすく伝えるプログラムや間伐素材で結ぶ学校・森・企業の連携プログラム事例紹介を通じて森林環境教育という新分野への参画を呼びかけます。

解説 **水野一男**（木文化研究所代表・環境プロデューサー）

〔資料〕2 - 1 . 解説レジメ

報告「木材普及活動と木材の応援団をつくること」

林 和男（愛媛大学農学部教授）

〔資料〕2 - 2 . 報告レジメ

報告「間伐素材が結ぶ学校・森林・企業の連携プログラム」

関 邦春（ジェイファンネット代表取締役）

〔資料〕2 - 3 . 報告レジメ

〔資料〕2 - 4 . スライド資料

テーマ2

森林環境教育をすすめることの意義と実践

解説 水野一男

木文化研究所代表・環境プロデューサー

森林環境教育を進めることの意義

日本の森林が保全され、活用されるためにひろく国民の理解と支持を得ることが大切。森林環境教育の実践を通して、広い人々の森林への関わりを深めていく。その事によって、自発的に森林への関与が高まり、森林と生活とが身近になっていく。

環境問題と森林の今日的役割

環境教育普及の実態とその形態

森林学習会、林業教室の功罪

森林環境教育を現場から始める

木材普及活動と木材の応援団をつくること

報告 林 和男
愛媛大学農学部教授

1 . 木材と木造住宅の研究会（木木研）の活動

今、山は？ 木造建築は安心できるか（阪神大震災）、異業種交流

2 . 木材利用における地産地消の意味

- ・ 運ばなくても良い（コストではなく使用エネルギー量が小さい）
- ・ 山が健全であるかどうかのチェックが可能
- ・ 文化・歴史の継続（もしあれば）
- ・ 種々の職種が必要になる
- ・ 加工技術が残る、地域が潤う
- ・ 近くの資源を使うのが人間の知恵

3 . 住宅着工数は増加しない。木材を沢山使用する方法。

4 . 木木研会員の住宅紹介

- ・ 丸太の使用
- ・ 厚い床板、野地板（適当ではないが）の使用
- ・ 外構
- ・ 洋風デザイン対応

5 . 応援団づくり - 演習林における小屋づくりの実践

- ・ 近くの資源を使い何ができるかを体験させる
- ・ 手入れ（木を使うこと）が森林を救う
- ・ 現代文明のありがたさの体験（電気、水、エネルギー）
- ・ 自分の知らない面を引き出す
- ・ 物作り、育てることの楽しさ（総合学問のすすめ）
- ・ 共同作業のおもしろさ、難しさ
- ・ 準備の大切さ
- ・ サステイナブルとは何かを考えることを目的として、小屋づくりを実践。
これを通して将来の応援団を増やす

6 . 実践してみても

- ・ 面白いが、自由に木を伐り、小屋を造る場所の確保。
- ・ 指導者の献身的な努力とプログラムに愛着を持つ中心的人材の確保。
- ・ 第2段、3段が必要。
- ・ はっきりそして単純な目的を示せること。しかし多様性があり使用できること。
- ・ 建物の維持をどうするか。
などの問題点はある。いずれにしても、人を育てるのは容易なことではない。
しかし人を育てなければ何も進まない。

間伐素材が結ぶ学校・森林・企業の連携プログラム

報告 関 邦春
ジェイファンネット代表取締役

- 1 . 一般企業の課題
 - 2 . 地域社会の課題
 - 3 . 学校等の課題
 - 4 . 学校・森林・企業連携プログラム企画の基本的な考え方
 - 5 . 神奈川県横浜市で実施する意義
 - 6 . 学校・森林・企業連携プログラム企画の一例
 - 7 . 森林環境保護の企業的視点
 - 8 . その他
-

間伐素材が結ぶ 学校・森林・企業の 連携プログラム

森林環境教育をすすめることの意義と実践

有限会社 ジェイファンネット

一般企業の課題

- 環境問題への取り組みが安易な分野のみに限られ、総合的・多角的な取り組みが行われていない。
- 環境問題に積極的に取り組みたいが、具体的なテーマが見出せていない。

地域社会の課題

- 子供を中心とした社会形成が出来ていない。
- ふれあい、コミュニケーションが出来ていない。
- 地域社会において環境問題への取り組み企業の顔が見えない。
- 循環型社会の形成が不完全である。

学校等の課題

- 完全5日制による「ゆとり」時間の有効活用
- 総合学習における体験学習テーマの提案

学校・森林・企業連携プログラムの 基本的な考え方

- 小学校を中心として考える
- 参加企業は地域企業を候補として考える
(本社・支店・営業所・工場・研究所・店舗等)
- 地域は区・市町村・県の範囲で考える
- 企業に対しては資金の提供と共に間伐・環境に対する啓発活動をお願いする
- 企画参加者は環境問題を「間伐」をキーワードに勉強いただく
- 森林組合には間伐体験の協力をお願いする
- 企業の変わりに自治体の参加も検討していく

神奈川県横浜市で実施する意義

- 日本最大の市である。
- 二酸化炭素消費量も多い
- 環境意識が高い
- 海を中心とした市である
- 山がない(神奈川県の1人当たりの森林面積は全国平均の1/10)
- 山は海の恋人

企画の一例

森林環境保の企業的 点

